

丸紅情報システムズ株式会社

複合機への印刷統合とユーザー認証で セキュアな印刷環境実現

- POINT**
- ISO27001に対応し「放置プリント」の解消へ
 - 複合機Apeosシリーズを採用し、ユーザー認証機能を活用
 - 「UT/400ダイレクト印刷オプション」によりプリントジョブを送信

COMPANY PROFILE

設立：1965年
本社：東京都渋谷区
資本金：10億9810万円
売上高：355億5005万円（2009年3月期）
従業員数：775名（2009年4月1日現在）
<http://www.marubeni-sys.com/>



古田 行男氏

執行役員
管理部門統括役員補佐、
情報システム部長
兼認証統括部長



中澤 寛之氏

情報システム部
システム管理課
担当課長



関 真一氏

管理本部人事総務部
部長補佐



上木屋 三春氏

情報システム部
システム管理課
課長

合併によるシステム統合で 印刷環境の整備に着手

丸紅ソリューション株式会社と丸紅情報システムズ株式会社は2007年10月に合併し、新生「丸紅情報システムズ」として新たな一歩を踏み出した。ソフトウェア開発から構築・運用に至る一連のITサービスを提供する開発系の旧丸紅情報システムズと、製造・流通・サービス業など多様なユーザー層に、国内外の先進的なIT商材を販売してきた商社系の旧丸紅ソリューションの統合により、シナジー効果を活かしたフルラインのバリューチェーン提供が可能になっている。

企業合併ではしばしば、両社のシステム統合が大きな課題となる。同社の場合は、旧丸紅情報システムズがWindowsサーバー上でERPを運用する一方、旧丸紅ソリューションでは、1991年頃にAS/400上で販売管理や契約管理など一連の基幹業務システムを構築し、運用を続けていた。合併に際しては、両社の業態の違いによる独自システムの統合が課題になったが、再構築のコストや工数を考慮した結果、新会社のシステム運用は旧丸紅ソリューション側に統合することを決定した。

統合システムの本稼働は2008年

10月。当時運用していたiSeries 810で統合を実施し、2009年11月には、Power Systems 520とIBM i V6R1に移行する予定である。

システム統合に際しては、旧丸紅情報システムズがオフィスで利用していたプリンタへの出力環境の整備も必要になった。旧丸紅ソリューションはiSeriesに直結する多数のドットプリンタやレーザープリンタを利用。一方の旧丸紅情報システムズでは、認証機能付きの複合機を多数導入し、請求書等の複雑な帳票はERPの基幹データをExcelのフォームに出力・印刷していた。

合併に際しては、iSeriesの基幹データを旧丸紅情報システムズが所有していた多数の既存プリンタにフォーム付きで出力するため、iSeries上で稼働しグラフィカルなPDF作成が行える「UT/400-iPDC」（アイエステクノポート）を採用。スプールファイルをPDFに変換して印刷できる環境を整えたという。

複合機への統合で セキュアな印刷環境を構築

こうしたシステム統合とは別に、旧丸紅ソリューション側でも出力環境の改善課題を抱えていた。同社は合併前

から、情報セキュリティマネジメントの世界標準規格であるISO27001(旧ISMS)の認証取得に動いていたが、その際、プリンタやFAXに出力したものの、そのまま放置されるドキュメント、いわゆる「放置プリント」や「放置FAX」の解消が問題になっていた。

「そこでプリンタ出力時、IDカードによるユーザー認証で自身のドキュメントだけを印刷するセキュアな環境の構築を目指すことになりました」と語るのは、古田行男執行役員(管理部門統括役員補佐、情報システム部長兼認証統括部長)である。

プロジェクトが具体的に動き出したのは、合併後の2007年12月。まずユーザー認証機能を備えた複合機として、富士ゼロックスのApeosシリーズを導入した。ちなみにApeosシリーズは以前から旧丸紅情報システムズが導入しており、「その運用性やコストパフォーマンスを評価した結果、導入を決定しました」(情報システム部システム管理課の中澤寛之担当課長)。現在、渋谷本社だけで同シリーズの複合機が10台、支店や大阪分室などを合めると、全社で30台近くが導入されている。

次に基幹データをダイレクトにApeosシリーズで印刷するため、富士ゼロックスとアイエステクノポートと

のアライアンスの下、2009年7月に発売された「UT/400ダイレクト印刷オプション for Xerox」を導入した。選定理由としては、iSeriesからオープン系プリンタや複合機へダイレクトに、両面やトレイ指定などを含めて多機能に印刷できる今までにない製品である点が挙げられる。

ここではユーザーが印刷命令を発行すると、基幹データのスパールファイルに、ログインIDである社員番号を自動的に付加し(この機能は丸紅情報システムズがiSeries上で開発)、「UT/400-iPDC」でPDFに変換。次に「UT/400ダイレクト印刷オプション」がプリントジョブをApeosに送信し、いったんローカルハードディスクに保管する。

そしてユーザーが、Apeos装備のICカードリーダーに自分のICカード(社員番号で管理)をかざすと、ハードディスク内のプリントジョブがもつ社員番号と照合され、自身のプリントジョブのみ印刷を実行する。これにより、オフィス系一般文書出力だけでなく、基幹データ出力においてもセキュアな印刷環境を実現した。

同社では2009年9月から、管理系部門に導入された2台のApeosで、この仕組みをスタートさせた。来春まで

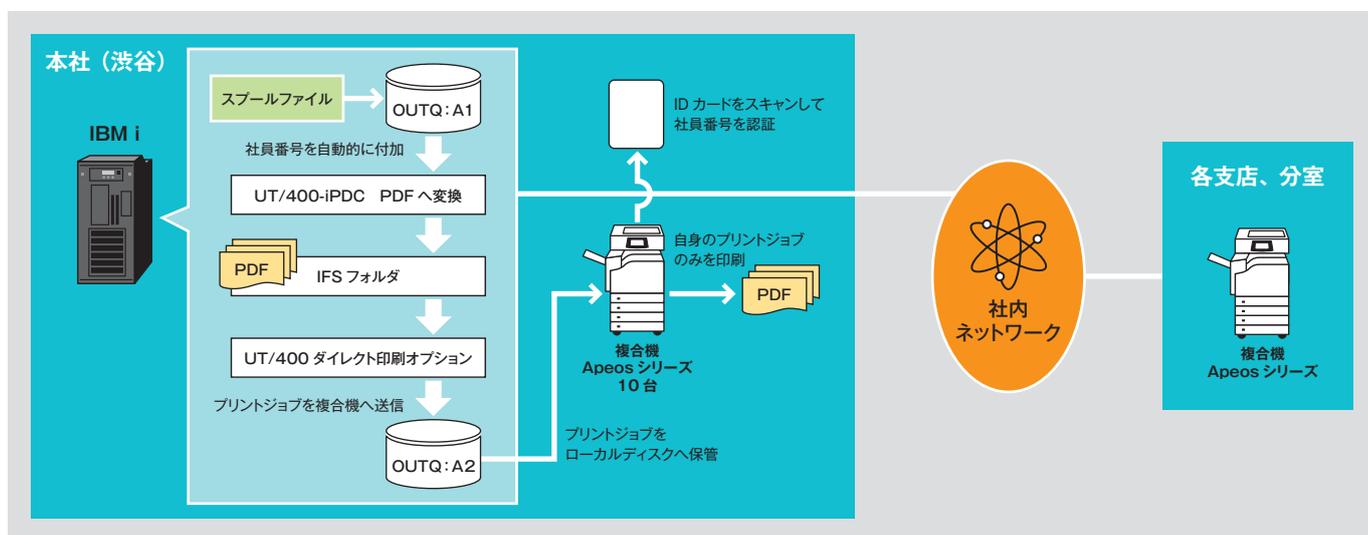
には、各部門・拠点で同様の環境を構築していく。

「これにより、ISO27001で求められるセキュリティ基準をクリアしただけでなく、省スペース性やランニングコストの削減、ペーパーレス化などさまざまな副次効果が生まれています」(管理本部人事総務部の関真一郎長補佐)

渋谷本社では、以前はプリンタ、コピー機、FAXなどの出力機器が200台以上導入されていたが、現在は40台まで減少し、代わりに10台のApeosが活躍している。この省スペース効果は大きい。また同社の試算では、消耗品の共通化によりランニングコストは5分の1に削減される見通しであるという。さらに紙の社内搬送の解消や、PDFのみの画面参照による印刷量の減少といった効果も見逃せない。

「現在はプリンタに直結させていますが、プリントジョブの集中を避け、空いている複合機への分散を図るため、今後はプリンティングサーバーを活用した運用を考えています」(情報システム部システム管理課の上木屋三春課長)

また複写伝票や大量印刷に対応するため、ドットプリンタは当面残すが、将来的には上記の仕組みを利用して複合機へ統合していきたいとしている。①



図表 システム概要